

人には物語がある。

感動は物語を生み、人は共鳴する。そして、さまざまな示唆を得る。 今年も物語を紡げただろうか。 人生を織りなす縦糸、横糸。一本一本紡げただろうか。

人生を織りなす縦糸、横糸。一本一本紡げただろうか。 "千人"の回峰は"千"の物語を生む。

273



日本フィルハーモニー交響楽団

平井俊邦

音楽の不思議な力に魅せられ オーケストラの経営立て直しに奔走

『週刊BCN』 vol.1856 (1 / 4) 『週刊BCN』 vol.1857 (1 / 11)

274 △□



イースト
取締役会員

下川和男 Kazuo Shimokawa

黎明期のパソコンに魅せられ ソフトウェア開発の世界へ

『週刊BCN』vol.1858(1 / 18) 『週刊BCN』vol.1859(1 / 25)



玉川学園高等部 音楽科教諭

髙橋美千子

「歌に始まり、歌に終わる」 学園生活の理念が 子どもたちの感性を育む

『週刊BCN』vol.1860 (2 / 1) 『週刊BCN』vol.1861 (2 / 8)

276人目

日本エレクトロニクスショー協会 執行理事・理事 CEATEC実施協議会 エグゼクティブ・プロデューサー

鹿野 清

自分の強みは製品に対する 「こだわり」"ソニーらしさ"の中で モノづくりに没頭する

『週刊BCN』vol.1862(2 / 15) 『週刊BCN』vol.1863(2 / 22)



歯科医師・歯学博士

藤卷五朗

勉強嫌いの"島の少年"が 一念発起し歯科医を目指す

『週刊BCN』 vol.1864 (3 / 1) 『週刊BCN』 vol.1865 (3 / 8)



SCSK 代表取締役 会長執行役員 最高経営責任者

田渕正朗 Masao Tabuchi

「仕事を背負う」ということは 自分のやりたいように プロデュースをすること

「週刊BCN』 vol.1866(3 / 15) 『週刊BCN』 vol.1867(3 / 22)

279 All



法政大学総長

田中優子

フランス文学者のエッセイに触れ 江戸文化の研究にのめり込む

『週刊BCN』vol.1868(3 / 29) 『週刊BCN』vol.1869(4 / 5)



日立システムズ 執行役員CTO兼経営戦略統括本部長

赤津雅晴 Masaharu Akatsu

最先端の研究者の心の奥底にはいつも『論語』の言葉があった

『週刊BCN』vol.1870(4 / 12) 『週刊BCN』vol.1871(4 / 19)



芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科 教授

增田幸宏 Yukihiro Masuda

目の前の課題に夢中で 取り組んでいると 自分のやるべきことが見えてくる

『週刊BCN』vol.1872(4 ∕ 26) 『週刊BCN』vol.1873(5 ∕ 3 · 10)

282 人目



そごう・西武 営業企画部 広告・宣伝担当

後 貴芳美

皆、心が弱っていた。 お客様へ、従業員へ レシートが"希望"を語る象徴になった

『週刊BCN』vol.1874(5 / 17) 『週刊BCN』vol.1875(5 / 24)





インターコム 代表取締役社長兼営業本部本部長

須藤美奈子

「簡単な英語で、編み物をするように何かをつくる仕事」 この職業との出会いが経営者の道につながる

『週刊BCN』 vol.1876(5 / 31) 『週刊BCN』 vol.1877(6 / 7)



エレコム 常務取締役

柴田幸生 Yukio Shibata

正反対のタイプだからこそ 創業者を支え、共に歩むことができた

『週刊BCN』vol.1878(6 / 14) 『週刊BCN』vol.1879(6 / 21)

36 Interview

Weekly BCN

2021.12.20 • 27 mon vol.1904



世の中を変える パブリッシングメディアを創り 人に感動を与えたい

『週刊BCN』vol.1880(6 / 28) 『週刊BCN』vol.1881(7 / 5)



上條英樹

アジャイルは目的ではなく、 あくまで手段 まずは顧客のニーズを的確に捉えること

『週刊BCN』 vol.1882(7 / 12) 『週刊BCN』 vol.1883(7 / 19)



立成 執行役員 ビジネスソリューション事業部長 主幹コンサルタント

プログラミングを知ったことで 世の役に立つ道を歩むことができた

『週刊BCN』vol.1884(7 / 26) 『週刊BCN』vol.1885(8 / 2)



ベーシック 代表取締役

子どもの頃から「なぜ?」を追求し 自らの生きる姿勢を確立する

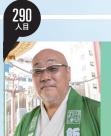
『週刊BCN』vol.1886 (8 / 9・16) 『週刊BCN』vol.1887 (8 / 23)



音楽家

聴こえてくる音から思い出す 景色がある 音の旅を楽しんでみて

『週刊BCN』vol.1888(8 / 30) 『週刊BCN』vol.1889(9 / 6)



一般社団法人 浅草観光連盟 理事 広報担当 浅草神社奉賛会 広報 事務局次長 株式会社イーウィルジャパン 代表取締役 CEO 株式会社イーウィルジャパン 代表取締役 CEOクオリティソフト株式会社 取締役 CMO

飯島邦夫

『世界の浅草』のためなら、 労は厭わないし ITやマーケの知識をフル活用する!

『週刊BCN』 vol.1890 (9 / 13) 『週刊BCN』 vol.1891 (9 / 20)



エディオン 相談役

父の背中と業界の先達に学び 家電戦国時代を生き抜いてきた

『週刊BCN』vol.1892 (9 / 27) 『週刊BCN』vol.1893 (10 / 4)



AuB 代表取締役

元日本代表が選んだ 腸内環境ビジネスという セカンドキャリア

『週刊BCN』vol.1894(10 / 11) 『週刊BCN』vol.1895(10 / 18)



ノバレーゼ 代表取締役社長

お客様に幸せをもたらすためには 自分たちが幸せでなければならない

『週刊BCN』 vol 1896(10 / 25) 『週刊BCN』 vol 1897(11 / 1)



日本資産運用基盤グループ 代表取締役社長

大原啓

"国のために働きたい"という思いは 官僚志望だった学生時代と 変わらない

『週刊BCN』vol.1898(11 / 8) 『週刊BCN』vol.1899(11 / 15)



小島衣料 代表取締役

石黒 崇

繊維の町に生まれ 新たなアパレルの世界に飛び込む

『週刊BCN』vol.1900(11 / 22) 『週刊BCN』vol.1901(11 / 29)



ハンブル・マネジメント代表

宮田一雄

日本企業がGAFAに伍するためには 総合的な知識を備えた人材育成が 必要だ

『週刊BCN』vol.1902(12 / 6) 『週刊BCN』vol.1903(12 / 13)

番外編

こぼれ話

慶大・相磯先生の近況

今年も最終号を迎えた。この『千人回峰』 は2007年から掲載を始めたので、満14歳 だ。前号掲載の宮田一雄さんで296人目。 年明け早々には300人目の方とお会いし て、2月には掲載の運びとなる。どなたと 思わぬ方との接点があった。相磯秀夫先はよす。その後いく人もの優秀なSFC卒業はいっているが執筆をされているが力を対率的で持続可能な社会の実現に大いるといる。 生だ。4月26日号に登場いただいた増田 者に会った。学生ばかりでなく、SFCの とのことで、さすがと感銘を受けており きく貢献する(SDGs・ESG・DXならび 幸宏先生との会話の中で、相磯先生の話 先生方がIT、インターネット業界を牽引 ます。思い起こせば、奥田会長が「慶大 に数年〜数十年先の技術・社会の未来予 が出た。実に懐かしい。私は、相磯先生 してこられた。 に「慶應大学湘南藤沢キャンパス (SFC)」 慶大SFCは、経済学部の加藤寛先生と たのではと考えております。私にも『千人 ということで、情けないことですが、『千 の開設当初に構内を案内していただいた。 環境情報学部の相磯秀夫先生らが中核と 回峰』に参加するようにお勧めのようです 人回峰』のご希望にもお応えできません。 先生が教室のドアを開け、事細かに説明 なって開設を推進してこられた。私はお が、最近は体調を崩し、思うようになら 私の非礼をお許しいただけますように(相 し、ドアを閉めて次に向かう。廊下を歩 二人に会った。相磯先生はいつもニコニ ない事情があります (注:1932年3月3日 磯先生筆)」。 きながらSFCのコンセプトを話された。 コ顔だ。加藤先生はいつも難しい質問を が誕生日)。 ここには未来があると思いながらも「この される。トンチンカンな理解でうまく答

笑みながら、待ってましたとばかりにお 応えになった。丁重にお見送りいただき、 もったいなく感じながら「ここが湘南藤沢 介する。 ご縁を結ぶのか、楽しみである。今年は キャンパスなんだ」と独りごちたのを思い 「BCNの奥田喜久男会長のご活躍をお に、文系AI人材の育成)を含む、③健全

「相磯先生との再会」をお願いした。その 返事としていただいたお便りの文面を紹

内の質問であったらしく、ニコニコほほ いた。かれこれ40年になる。増田先生に 齢者ですので、何が起こっても不思議な

ことはありません。覚悟はしております (注:何とも丁寧な近況をお伝えいただい た。この10年での先生の業績を記す)。① 最先端ICT技術:人間中心の超スマート 社会 (Society 5.0) 実現のため、②人工 知能:あらゆる分野における人工知能(特 SFC」を訪問されたのもその始まりであっ 測など)ことの手助けをしてきました――

私が89歳になった時、ここまで丁 考えてみれば、今年「89歳で知力・想 寧に近況を伝えることができるだろう 地は遠くありませんか」と質問したら想定 えられない自分が情けなくて、足が遠の 像力・体力・意欲」がすっかり衰えた老 か。相磯先生、この範を心に刻みます。 (BCN 奥田喜久男記)

【注】登場していただいた方々の肩書きは取材当時のものです。

Interview 37 第3種郵便物認可 2021.12.20 • 27 mon vol.1904 Weekly BCN